

OmniDock 操作マニュアル

Windows のデスクトップ右端に常駐する、ガジェット一体型サイドバーランチャーです。このマニュアルは基本的な使い方をわかりやすく説明します。

動作環境: Windows 10 / 11 (64bit)。自己完結型の実行ファイルのため、.NET ランタイムのインストールは不要です。

目次

- 1. 機能一覧
- 2. 活用例：プロジェクト別ファイル管理
- 3. インターフェースの説明
 - サイドバーの開き方・閉じ方
 - サイドバーの横幅を変える
 - 画面構成
- 4. 各機能の詳細な使い方
 - デジタル時計
 - クイック Web 検索
 - システムモニター & メモリ解放
 - お気に入りアプリ（ショートカットグループ）
 - クリップボード履歴
 - ファイル一時置き場
 - ブロックの並び替え
 - ピン止め機能
- 5. 設定画面の使い方
- 6. よくある質問 (FAQ)
- 7. インストール・アンインストール方法
- 8. 配布形態（お試し版・シェアウェア版）
- 9. 作者への連絡先

1. 機能一覧

機能	概要
デジタル時計	秒単位でリアルタイム更新される大きな時計
クイック Web 検索	キーワードを入力して Enter するだけでブラウザ検索
システムモニター	CPU・メモリ使用率をリアルタイム表示
メモリ解放	ワンクリックでメモリをクリーンアップ
ショートカットランチャー	よく使うアプリ・ファイルをアイコンで素早く起動

機能	概要
アプリ一覧から登録	インストール済みアプリの一覧から選んで登録。スタートメニューやタスクバーからは D&D できないため、そこにしかないアプリもここから登録できる
URL ショートカット	Web サイトの URL を登録、クリックで既定ブラウザを起動
起動ブラウザの指定	URL ショートカットごとに、開くブラウザを個別に指定
PowerShell コマンドショートカット	複数行の PowerShell コマンドをアプリ内に保存し、クリックひとつで実行。実行中ウィンドウの表示/非表示も選択可
ショートカット名の変更	登録したアイコンの表示名をその場（インライン）で自由に変更
グループ管理	ショートカットを複数グループに分けて整理
D&D でグループ自動作成	エクスプローラーの窓やファイルをグループ枠の外にドロップすると新規グループを自動作成
メモ表示	グループに .md / .txt ファイルを紐付けてメモを常時表示
クリップボード履歴	テキスト・画像・ファイルのコピー履歴を自動保存、クリックで即ペースト
ファイル一時置き場	デスクトップを散らかさずにファイルを一時保管
管理者として起動	手動登録したアプリを右クリックで「常に管理者権限で起動」に設定可能。アイコンにシールドマーク (🛡️) が表示される
起動フォルダの指定	登録したアプリに開くフォルダを紐付け、アイコンのクリックだけでそのフォルダを開いた状態で起動（VS Code など）
ドラッグ&ドロップ並び替え	ガジェット・グループ・グループ内アイコンを自由に並び替え
グループ間アイコン移動	アイコンを別グループへドラッグ&ドロップすることで、グループをまたいでショートカットを移動できる
ピン止め	サイドバーを開いたまま固定し、他のウィンドウと共存
AppBar 連携	最大化ウィンドウが自動的に OmniDock を避けて表示
配置位置の切替	サイドバーを画面の右端／左端のどちらにも配置可能
横幅の変更	サイドバーの内側の端をドラッグして表示エリアの横幅を変更可能。広げるとアイコンが横に並ぶ数も増える
マルチモニター対応	マウスが任意のモニターの端に到達すると、OmniDock がそのモニターへ自動的に移動して展開
表示モニターの限定	OmniDock を表示するモニターを「すべて／プライマリのみ／セカンダリのみ」から選択可能
ホバー検知の調整	検知帯（10px）を 0px に隠してシステムフックで検知／画面端の上下20%を検知対象外にする／開くまでの待ち時間を 0～1 秒で設定
スタートアップ登録	Windows サインイン時に自動起動（管理者権限不要）

機能

概要

Fluent カラーテーマ

アクセントカラー 1 つを選ぶだけで全体の配色を自動生成・透過度も調整可能

2. 活用例：プロジェクト別ファイル管理

OmniDock の機能を組み合わせると、「複数プロジェクトを並行して進める」シーンで特に力を発揮します。ここでは **プロジェクト別にファイルをまとめておく** 具体的な使い方を紹介します。

シナリオ：Aプロジェクトの作業中にBプロジェクトの質問が来た

状況：

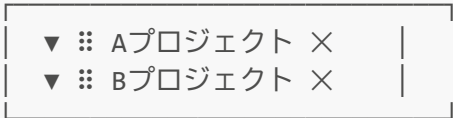
あなたは「Aプロジェクト（ECサイト改修）」の作業をしていた。
そこへ同僚から「Bプロジェクト（在庫管理システム）の
仕様書って今どうなってたっけ？」とメッセージが来た。

OmniDock を使っていれば、作業を中断せず **数秒でBプロジェクトの仕様書を開いて** 回答できます。

準備：プロジェクトごとにグループを作っておく

ステップ 1 — グループを追加する

1. サイドバーを開き、「+ **グループ追加**」をクリック
2. グループ名を「**Aプロジェクト**」に変更（グループ名をダブルクリック → 入力 → Enter）
3. 同様に「**Bプロジェクト**」グループも追加する



ステップ 2 — 各プロジェクトのファイルを登録する

1. エクスプローラーで **仕様書・設計書・タスクメモ** などのファイルを選択
2. 対応するグループのアイコンエリアに**ドラッグ&ドロップ**

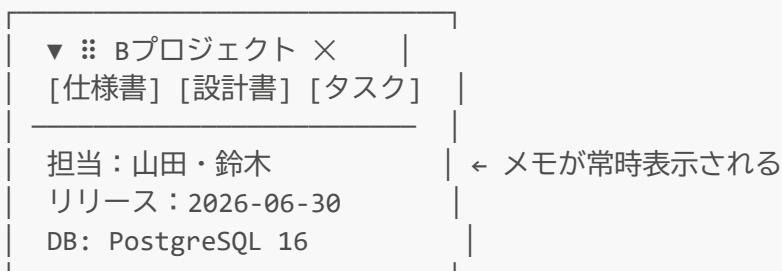
Aプロジェクト	Bプロジェクト
EC_仕様書.docx	在庫管理_仕様書.xlsx
DB設計.xlsx	API設計.md
タスク一覧.md	タスク一覧.md
deploy.sh	config.json

ヒント：フォルダの中身をまるごとグループにしたいなら、そのフォルダを開いているエクスプローラーの **ウィンドウ（タイトルバー）** を、グループ枠の外の空きスペースにドラッグ&ドロップします。フォルダ名のグループが自動作成され、中のファイルが全件一覧表示されます（フォルダの中身の変更も自動で反映されます）。フォルダ構成が既に整理されているなら、これが一番速いです。

ステップ3ー メモファイルを紐付ける（任意）

プロジェクトのポイントを **メモ.md** に書いておくと、グループ下部に常時表示されます。

1. グループ内の空きスペースを**右クリック**
2. メモファイル欄に **.md** または **.txt** ファイルを指定



いざ質問が来たとき：3ステップで対応

1. 画面右端にマウスを動かす → サイドバーが開く（0.2秒）
2. 「Bプロジェクト」グループを見る → ファイルが一覧されている
3. 仕様書のアイコンをダブルクリック → 即座に開く

作業ウィンドウを最小化したり、エクスプローラーでフォルダを掘り下げたりする必要はありません。

応用：よりスムーズに使うための追加テクニック

よく参照するファイルは「ファイル一時置き場」に入れておく

作業中にたびたび開くファイルをドラッグ&ドロップして仮置きしておくと、グループとは別に**作業セッション中のワンタッチアクセス**として使えます。

ファイル一時置き場

- 📄 議事録_20260526.docx ← 今日の会議後すぐにドロップ
- 📄 見積もり_暫定.xlsx ← 後で移動する予定のファイル

クリップボード履歴でプロジェクト間の情報をつなぐ

Bプロジェクトの仕様書から担当者名・バージョン番号・URLなどをコピーして、Aプロジェクトのドキュメントや Slack へすぐに貼り付けられます。

コピーした履歴が残っているので、いちいち仕様書を開き直す必要なし。

ピン止めで両方の画面を見ながら作業

📌 ボタンでサイドバーを固定すると、メインウィンドウと OmniDock を同時に見ながら作業できます。最大化ウィンドウは自動的に OmniDock を避けるため、画面が狭くなる心配ありません。

3. インターフェースの説明

サイドバーの開き方・閉じ方

OmniDock は画面端に **10px の細い帯（ホットストリップ）** として常駐しています。完全に消えることはなく、この帯がマウス検知のトリガーになります。配置は設定で **右端（既定）** / **左端** を切り替えられます。

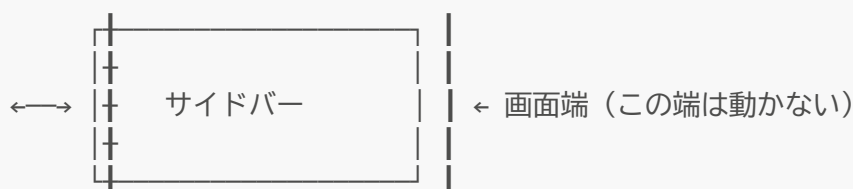


マウスをサイドバー外に移動すると、コンテンツ部分は閉じて 10px に戻ります。ファイルをドラッグしながら配置側の画面端に近づけると、サイドバーが即時に開きます（ファイルの一時置き場に便利）。

ホットストリップの非表示 (0px)： 設定の「ホバー検知」で検知帯を 0px にできます。帯が完全に消え、マウスが画面端に到達したことをシステムフックで検知します。他アプリの端ギリギリの操作を妨げませんが、マウスを画面端ぴったりまで動かす必要があります（詳細は設定画面の項を参照）。

サイドバーの横幅を変える

サイドバーを開いた状態で、**内側の端**（画面中央に近い側の端）にマウスを合わせるとカーソルが左右矢印 ⇄ に変わります。そのままドラッグすると横幅を変更できます。



↑
ここをドラッグ

操作	動作
内側の端を 画面中央 へドラッグ	横幅が広がる
内側の端を 画面端 へドラッグ	横幅が狭まる

- **アイコンの並ぶ数が変わります。** 横幅を広げると、グループ内のアイコンが横に並ぶ数も自動的に増えます。登録したショートカットが多い場合は、広げると一覧性が上がります。
- **画面端の位置は動きません。** 伸縮するのは内側だけなので、サイドバーは常に画面端に張り付いたままです。
- **幅は保存されます。** 次回起動時も同じ幅で開きます。
- 変更できる範囲は **200px ~ 900px** です。

ピン止め中に幅を変えたとき：ピン止め設定が「他のウィンドウを避ける」の場合、幅を変え終えた時点で他ウィンドウに確保させる領域も新しい幅に合わせて更新されます。

左端に配置しているとき：ドラッグする端は右側になります。この位置はグループ一覧のスクロールバーと近いため、スクロールバーを操作したい場合は少し内側をクリックしてください。

画面構成

サイドバーを開いたときの全体レイアウトです。

OmniDock

デジタル時計

クイック検索窓

システムモニター [解放]

▼ :: お気に入り ×
[アイコン] [アイコン]...

▼ :: 仕事用ツール ×
[アイコン] [アイコン]...

[+ グループ追加]

▼ [クリップボード履歴]

▼ [ファイル一時置き場]

← ツールバー（常時表示）

┌
| ガジェットエリア
└ (スクロールしない・固定表示)

┌
| グループエリア
└ (上下スクロール可能)

← 常に最下部固定

← 常に最下部固定

各ボタンの説明

6 / 20

ボタン	場所	役割
	ツールバー右上	ピン止め（開いた状態を固定）。未固定時は斜め線入りのアイコンで表示
	ツールバー右上	設定画面を開く
	グループヘッダー左端	ドラッグして並び替えるハンドル
右クリック	グループ内の空きスペース	グループのメニューを開く（アプリ・URL の追加、フォルダ・メモ設定）
×	グループヘッダー右	グループを削除
×	各リスト項目の右端	その項目を削除

4. 各機能の詳細な使い方

デジタル時計

秒単位でリアルタイムに更新される時計です。

- 表示サイズは 28px の大きなフォント
- フォントの太さ（太・普通・細）は設定画面で変更できます
- 設定画面の「表示設定」から非表示にすることもできます

クイック Web 検索

検索したいキーワードを入力して **Enter** を押すと、既定のブラウザで Google 検索が開きます。

手順：

- 検索窓をクリックしてフォーカスを当てる
- 検索キーワードを入力する
- Enter** キーを押す → ブラウザが開いて検索結果が表示される

初期状態では「Googleで検索...」と薄く表示されています（入力すると消えます）。

システムモニター & メモリ解放

CPU とメモリ（RAM）の使用率をリアルタイムで確認できます。

CPU  55%
RAM  72% [解放]

- CPU / RAM のバー**：使用率が高いほど長くなります
- 「解放」ボタン**：クリックすると不要なメモリを強制的に解放します
 - パソコンの動作が重くなってきたときに使うと効果的です

- 1秒ごとに自動更新されます

お気に入りアプリ（ショートカットグループ）

よく使うアプリ・ファイル・フォルダをまとめて管理できます。

グループを追加する

方法1：ボタンから追加

1. サイドバー下部の「+ グループ追加」 ボタンをクリック
2. 新しいグループが追加されます

方法2：エクスプローラーから D&D して自動作成

グループエリアの **グループ枠の外（空きスペース）** にエクスプローラーからドラッグ&ドロップすると、新しいグループが自動的に作成されます。ドロップするものによって中身の登録方法が変わります。

- **フォルダを開いたエクスプローラーのウィンドウ（タイトルバー）をドロップ**： そのフォルダを「フォルダ指定」したグループが作られます。フォルダ名がそのままグループ名になり、中のファイル・フォルダが全件一覧表示されます（フォルダの中身の変更は自動で同期され、グループ設定の「フォルダ指定を解除」でグループ内を空に戻せます）。
- **ファイル（アイコン）を選択してドロップ**： 選択したファイルだけがショートカットとして登録されます（フォルダ全体は取り込みません）。グループ名はドロップ元のフォルダ名になります。

ショートカットを登録する

ドラッグ&ドロップで追加：

1. エクスプローラーでアプリやファイルを選択
2. グループのアイコンエリアにドラッグ&ドロップ

インストール済みアプリの一覧から追加：

1. グループ内の空きスペースを**右クリック**
2. 「**アプリを追加...**」を選択
3. 別ウィンドウでアプリの一覧が開くので、登録したいアプリを選んで「**追加**」
 - 上の検索欄にアプリ名の一部を入力すると絞り込めます
 - **Ctrl** キーや **Shift** キーを押しながら選ぶと、複数のアプリをまとめて追加できます

なぜこの機能があるか： スタートメニューやタスクバーのアイコンは、Windows の仕様上ドラッグ&ドロップで取り出せません。そこにしか無いアプリを登録するための入口がこの一覧です。一覧はスタートメニューに登録されているアプリから作られます（アンインストールなどは自動的に除外されます）。

Microsoft Store から入れたアプリ（ストアアプリ）は、通常この一覧には表示されません。

フォルダを登録：

- フォルダをグループにドロップすると、そのフォルダがショートカットとして登録されます（クリックするとフォルダが開きます）

- フォルダの **中身を一覧表示** したい場合は、グループ設定の「**フォルダを指定してアイコン表示**」（後述）を使うか、フォルダを開いたエクスプローラーのウィンドウをグループ枠の外にドロップしてください

Web サイトの URL を登録：

1. グループ内の空きスペースを**右クリック**
 2. メニュー一番下の「**URL を追加...**」を選択
 3. URL（例：<https://example.com>）と、任意で表示名を入力して「追加」
 - 表示名を空欄にすると、サイトのホスト名（例：example.com）が自動で使われます
 - <https://> を省略して入力しても自動で補完されます
- ブラウザのタブやリンクを、グループのアイコンエリアに**ドラッグ&ドロップ**しても登録できます

登録した URL はクリック（詳細ビューはダブルクリック）すると、既定のブラウザでサイトが開きます。アイコンはサイトのファビコンを自動取得して表示し、取得できない場合は地球儀アイコン（）で表示されます。

PowerShell コマンドを登録：

1. グループ内の空きスペースを**右クリック**
2. メニューの「**PowerShell コマンドを追加...**」を選択
3. 表示名と、実行したい PowerShell コマンド（複数行貼り付け可）を入力
4. 実行結果を確認したい場合は「**実行中のウィンドウを表示する**」にチェックを入れる（既定はオフ＝バックグラウンド実行）
5. 「**追加**」をクリック

登録したコマンドはクリック（詳細ビューはダブルクリック）すると PowerShell で実行されます。アイコンは稲妻マーク（）で表示されます。内容は右クリックの「**コマンドを編集...**」からいつでも書き換えられます。「管理者として起動する」（後述）を設定すれば、管理者権限が必要なコマンドも実行できます。

ショートカットを開く

- **アイコンビュー**：アイコンをダブルクリックで開く（URL はクリックでブラウザ起動）
- **詳細ビュー**：一覧の項目をダブルクリックで開く

アイコン名は先頭5文字のみ表示されます。フルネームはアイコンにマウスを乗せると（ツールチップで）確認できます。

ショートカットを並び替える

グループ内のアイコン（または詳細ビューの項目）はドラッグ&ドロップで並び替えられます。ドラッグ中は半透明のアイコンがマウスカーソルに追従し、ドロップ先のアイテムが避けるように動きまわります。

- **アイコンビュー**：アイコンをつかんで好きな位置へドラッグ
- **詳細ビュー**：行頭の **::** グリッパ（または行）をつかんでドラッグ
- 手動登録したショートカットと、フォルダ指定で自動表示されたアイテムは**それぞれのまとまり（セクション）内**で並び替えできます

- 並び替えた順番は自動保存され、次回起動時やフォルダ再読み込み後も保持されます

ショートカットの名前を変更する

アイコンの表示名は自由に変更できます。

1. アイコン（詳細ビューでは項目）を**右クリック** → 「**名前を変更**」を選択
2. 名前の部分がその場で入力欄に変わるので、新しい名前を入力
3. **Enter** キーまたは他の場所をクリックすると確定（**Esc** で取消）

入力欄を空にして確定すると、既定の名前（ファイル名や URL のホスト名）に戻ります。
フォルダ指定で自動表示されているアイテムは名前を変更できません。

グループ名を変更する

グループ名のテキスト部分を**ダブルクリック**すると編集できます。

Enter キーまたは他の場所をクリックすると確定します。

グループ設定（フォルダ・メモ）

グループ内の空きスペースを**右クリック**すると、フォルダやメモファイルを設定できます。

- **フォルダを指定**：指定フォルダ内のアイテムを一覧表示
- **メモファイルを指定**：**.md** または **.txt** ファイルの内容をグループ下部に常時表示

ショートカットを削除する

アイコン（詳細ビューでは項目）を**右クリック**して「**削除**」を選ぶと、そのショートカットが削除されます。

フォルダを指定して表示されているアイテムは個別削除・名前変更できません。フォルダ指定を解除するか、フォルダ本体のファイルを削除してください。

URL の起動ブラウザを指定する

URL ショートカットごとに、開くブラウザを個別に指定できます。既定では Windows の既定ブラウザで開きます。

設定手順：

1. 対象の URL アイコン（詳細ビューでは項目）を**右クリック**
2. 「**起動ブラウザを指定...**」を選択
3. 一覧からブラウザを選んで「**OK**」

解除手順：

- 同じ手順で「**既定のブラウザ**」を選ぶと、指定が解除されて既定ブラウザで開くようになります

指定中のブラウザは、アイコンにマウスを乗せるとツールチップで確認できます。

この項目は URL ショートカットにのみ表示されます。一覧にはパソコンにインストールされているブラウザが表示されます。

管理者として起動する

手動登録したアプリ・ファイルのショートカットを、常に管理者権限（UAC 昇格）で起動するよう設定できます。

設定手順：

1. 対象のアイコン（詳細ビューでは項目）を**右クリック**
2. 「**管理者として起動する**」を選択
3. アイコンの右上に青いシールドマーク（）が表示され、クリック時に UAC ダイアログが出て管理者権限で起動します

解除手順：

1. シールドマーク付きのアイコンを**右クリック**
2. 「**通常起動に戻す**」を選択 → シールドマークが消え、通常権限での起動に戻ります

この設定はアプリ終了後も保持され、次回起動時も引き継がれます。

対象外のショートカット： フォルダ由来のアイテム、URL ショートカット、手動登録したフォルダのショートカットは管理者起動の対象外です。これらを右クリックしてもメニューに「管理者として起動する」は表示されません。

起動時に開くフォルダを指定する

登録したアプリに「開くフォルダ」を紐付けておくと、アイコンをクリックするだけで、そのフォルダを開いた状態でアプリが起動します。

VS Code のようなエディターで、毎回フォルダを開き直す手間がなくなります。

設定手順：

1. 対象のアイコン（詳細ビューでは項目）を**右クリック**
2. 「**起動時に開くフォルダを指定...**」を選択
3. フォルダを選ぶと、以降そのアイコンをクリックしたときにフォルダを開いた状態で起動します

解除手順：

1. 設定済みのアイコンを**右クリック**
2. 「**起動フォルダの指定を解除**」を選択 → 通常の起動に戻ります

この設定はアプリ終了後も保持され、次回起動時も引き継がれます。

指定中のフォルダは、アイコンにマウスを乗せるとツールチップで確認できます。

例：VS Code のアイコンに「C:\work\ECサイト改修」を指定しておくと、
アイコンをクリックするだけで、そのプロジェクトを開いた VS Code が起動する

仕組みと注意： 指定したフォルダは、アプリの起動時に引数として渡されます。VS Code のように「引数で渡されたフォルダを開く」アプリで機能します。引数を読まないアプリでは無視され、フォルダは開かれません。

対象外のショートカット： フォルダ由来のアイテム、URL ショートカット、手動登録したフォルダのショートカット、PowerShell コマンドショートカットは対象外です。これらを右クリックしてもメニューに「起動時に開くフォルダを指定...」は表示されません。

グループ設定を解除する

グループ内の空きスペースを**右クリック** → メニューから解除操作を選択できます。

メニュー項目	動作
フォルダを指定してアイコン表示...	フォルダを選択してその内容を表示
フォルダ指定を解除	フォルダ由来のアイコンをすべて消去
メモファイルを指定...	.md / .txt ファイルを選択して下部に表示
メモ表示を解除	メモエリアを非表示にする
アプリを追加...	インストール済みアプリの一覧から選んで登録
URL を追加...	Web サイトの URL を登録（クリックでブラウザ起動）
PowerShell コマンドを追加...	複数行の PowerShell コマンドを登録（クリックで実行）

フォルダ・メモの自動更新

- **フォルダ指定時：** フォルダ内のファイルが追加・削除されると、表示が自動的に更新されます
- **メモファイル指定時：** テキストエディターなどで内容を編集・保存すると、OmniDock の表示が自動で更新されます

グループを削除する

グループヘッダー右の ×（赤） ボタンをクリックすると確認ダイアログが表示されます。「はい」 を選ぶとグループが削除されます（登録したショートカット情報も消えます）。

クリップボード履歴

テキスト・画像・ファイルをコピーするたびに、OmniDock が自動的に履歴を蓄積します。

コピーした内容を貼り付ける

1. 貼り付けたい場所（メモ帳、ブラウザの URL バー、画像編集ソフト、エクスプローラーのフォルダなど）にカーソルを置く
2. サイドバーを開いてクリップボード履歴を確認する
3. 貼り付けたい項目を**シングルクリック**
4. 自動的に元のウィンドウにフォーカスが戻り、貼り付けが実行される

ピン止め中の場合、貼り付け後もサイドバーは閉じません。

画像のコピー＆ペースト

スクリーンショット（PrtScn / Snipping Tool）やブラウザの「画像をコピー」で取得した画像も履歴に残ります。

- 履歴にはサムネイルが表示され、クリックすると**コピー時と同じフル解像度**で貼り付けられます。
- 画像はアプリ内部に保存されるため、アプリを再起動しても履歴・サムネイルは保持されます。
- 同じ画像を続けてコピーしても、履歴が重複することはありません（既存の項目が先頭に移動します）。

ファイルのコピー＆ペースト

エクスプローラーでファイルやフォルダを Ctrl+C でコピーした場合も履歴に残ります。

- 単一ファイルはファイル名、複数選択時は「 3個のファイル」のように件数で表示されます。
- Windows 標準のコピー＆ペーストと同様、**ファイルの実体は複製されず、場所（パス）だけを記憶します**。そのため、コピー後に元のファイルを移動・削除・リネームすると、その項目は貼り付けられなくなります（クリックしても反応しません）。
- 貼り付け先はエクスプローラーのフォルダなど、ファイルの貼り付けに対応したアプリです。

履歴から特定の項目を削除する

項目右端の × をクリックすると、その項目のみを履歴から削除します。

主な特徴

項目	内容
対応する内容	テキスト・画像・ファイル（複数選択可）
最大保持件数	デフォルト 20件（設定で 5～200件に変更可）
重複排除	同じ内容をコピーすると先頭に移動（重複しない）
終了後も保持	アプリを終了しても履歴は保存される（画像もフル解像度のまま）

ファイル一時置き場

デスクトップを散らかさずに、ファイルを一時的に保管できるエリアです。

ファイルを登録する

エクスプローラーからファイルをファイル一時置き場のエリアに**ドラッグ&ドロップ**します。

ファイルをコピー・移動する

登録されているファイルを別のフォルダに**ドラッグ&ドロップ**するとコピーできます。

項目を**右クリック**するとメニューが表示されます：

- **別フォルダに移動** → ファイルを指定フォルダへ移動
- **別フォルダにコピー** → ファイルを指定フォルダへコピー
- **リストから削除** → 一覧から削除（ファイル本体は削除されない）

一覧から項目を削除する

項目右端の × をクリックすると一覧から削除されます（ファイル本体は削除されません）。

ブロックの並び替え

ガジェット・グループ・グループ内アイコンの順番を、ドラッグ&ドロップで自由に変更できます。グループやアイコンの並び替え中は、つかんだ対象が半透明のゴーストとしてマウスに追従し、ドロップ先が避けるアニメーションで移動先が分かりやすく表示されます。

ガジェット（時計・検索・モニター）の並び替え

各ガジェットの上部にある透明な帯（5px）にマウスを乗せるとカーソルが変わります。そのままドラッグして上下に移動すると並び替えができます。

グループの並び替え

グループヘッダー左端の ≡（**グリップアイコン**）部分をドラッグして上下に移動します。ヘッダー全体をドラッグしても並び替えられます。

グループ内ショートカットの並び替え

各グループ内のアイコン（詳細ビューでは行）をドラッグして並び替えられます。アイコンビューでもアイコンをそのままつかんで移動できます。手動登録分とフォルダ自動表示分は、それぞれのまとまり内で並び替わります。

並び替えた順番はアプリ終了時に自動保存され、次回起動時に復元されます（フォルダ自動表示アイテムの順番も保持されます）。

ピン止め機能

ツールバー右上の **ピン止めボタン**（📌）を押すと、サイドバーを開いた状態に固定できます。

状態	ボタンの見た目	動作
通常（未固定）	斜め線入りのピン（グレー）	マウスが離れると自動的に閉じる
ピン止め中	ピン（青・アクセントカラー）	手動で解除するまで開いたまま

- ピン止め中の動作は **設定画面の「ピン止め設定」** で2種類から選べます
- 設定画面を開いている間は自動的にピン状態として動作します

ピン止め設定	動作
他ウィンドウを避ける（既定）	ピン止め中は最大化ウィンドウが OmniDock の 300px を避ける。非ピン時は隙間なし
他ウィンドウの上に表示	ピン止め中も予約幅を確保せず、OmniDock が常に最前面に重なって表示される

5. 設定画面の使い方

ツールバー右上の **⚙ ボタン** をクリックすると設定画面に切り替わります。
「← 戻る」 ボタンでメイン画面に戻ります（別ウィンドウは開きません）。

表示設定

各コンポーネントの表示・非表示を個別に切り替えられます。

設定項目	説明
時計を表示	デジタル時計の表示 ON/OFF
時計フォントの太さ	太 / 普通 / 細 から選択
検索窓を表示	クイック検索窓の表示 ON/OFF
システムモニターを表示	CPU・メモリ表示の ON/OFF
クリップボード履歴を表示	クリップボード欄の表示 ON/OFF
ファイル一時置き場を表示	一時置き場欄の表示 ON/OFF
スクロールバーを非表示	バーを非表示にする（マウスホイールは引き続き有効）

ショートカット表示

グループ内のショートカットの見せ方を切り替えます。

モード	表示内容
アイコン	アプリのアイコンを横に並べてコンパクトに表示
詳細	アイコン＋ファイル名を縦一覧で表示

アクセントカラー

OmniDock の配色は **Fluent Design** に準拠しています。

設定する色は **アクセントカラー（フォームの背景色）の 1 つだけ** で、文字・ボタン・枠線・サーフェス（カード/ポップアップ）の色は、選んだ背景色の明るさに合わせて **読みやすさを保つように自動生成** されます。

- カラーパレットから好きな色を選ぶと、それがフォームの背景になります
- 現在選択中の色は白い枠線で強調表示されます
- **暗い色** を選ぶと文字は白系・サーフェスは少し明るいトーンに

- **明るい色** を選ぶと文字は黒系・サーフェスは少し暗いトーンに、それぞれ自動で切り替わります

個別に「文字色」「枠線色」を指定する必要はありません。アクセントカラー 1 つを選ぶだけで全体の配色が整います。

透過度

アクセントカラーのパレットの下にあるスライダーで、背景の透明度を **10~100%** の範囲で調整できます。値が小さいほど背景が透明になります（カードや文字などの中身は読みやすいまま保たれます）。

ピン止め設定

ピン止め中のウィンドウ共存方法を選択します。

選択肢	動作
他ウィンドウを避ける	ピン止め中は AppBar API で 300px を確保し、最大化ウィンドウが自動的に空ける
他ウィンドウの上に表示	ピン止め中も予約幅を確保せず、OmniDock がすべてのウィンドウの手前に重なる

非ピン止め時はどちらの設定でも予約幅は 0px です（最大化ウィンドウは画面端まで広がります）。

設定を変更すると、次のピン止め操作から即座に反映されます。

配置位置

サイドバーを画面の **右端（既定）** ／**左端** のどちらに配置するかを選びます。

選択肢	動作
右端（デフォルト）	サイドバー・ホットストリップを画面右端に配置
左端	サイドバー・ホットストリップを画面左端に配置

切り替えると配置・角丸・ピン止め時の予約領域がすぐに左右反転します。左端配置では画面端の検知に常時システムフックを使用します。

表示するモニター

モニターを複数つないでいる場合に、OmniDock を **どのモニターに表示するか** を選べます。

選択肢	動作
すべてのモニター（デフォルト）	どのモニターでも、画面端にマウスを寄せると OmniDock がそのモニターへ移動して開きます
プライマリモニターのみ	メインのモニターでのみ開きます。他のモニターでは画面端にマウスを寄せても反応しません
セカンダリモニターのみ	メイン以外のモニターでのみ開きます。メインモニターでは反応しません

使いどころ：「作業用のメインモニターは画面端まで広く使いたいが、サブモニターにはランチャーを常駐させたい」といった場合に「セカンダリモニターのみ」が便利です。逆に、サブモニターで動画や資料を全画面表示するので邪魔されたくない場合は「プライマリモニターのみ」を選びます。

設定を変えたとき、OmniDock が対象外のモニターにいる場合は、対象のモニターへ自動的に移動します。モニターを抜き差ししたときも自動的に追従します。

モニターが 1 台しかないとき：「セカンダリモニターのみ」を選んだままノートパソコンから外部モニターを外すと、OmniDock を開けるモニターが無くなってしまいます。これを避けるため、セカンダリモニターが存在しない間は、この制限は一時的に無視され、どのモニターでも開くようになります（外部モニターをつなぎ直すと、元どおりセカンダリモニターのみで開くようになります）。

スタートアップ

Windows サインイン時に OmniDock を自動起動するかどうかを設定します。

設定項目	説明
Windows 起動時に自動的に開始する	サインイン時に OmniDock を自動起動します（現在のユーザーのみ・管理者権限不要）

この設定は Windows のレジストリ（現在のユーザーのスタートアップ）に登録され、チェックを外すと登録が解除されます。

ホバー検知

ホットストリップ（マウス検知用の帯）の挙動を切り替えます。

設定項目	説明
ホットストリップを非表示にする（0px）	検知帯を 0px にして完全に隠し、画面端への接近をシステムフックで検知します。タスクバーへの予約領域も 0px になります
画面端の上下20%では反応しないようにする	モニターの上端・下端付近（各20%）にカーソルを合わせてもサイドバーが開かなくなります
開くまでの待ち時間	カーソルが画面端に到達してからサイドバーが開くまでの遅延を、スライダーで 0～1 秒 の範囲で設定します

「開くまでの待ち時間」について： 0 秒（既定）なら端に触れた瞬間に開きます。長めに設定すると、画面端を**その時間だけ**カーソルで留めたときにのみ開くようになり、端にちょっと触れただけで不意に開くのを防げます。途中でカーソルが端から離れると開きません。

「画面端の上下20%では反応しないようにする」について： 既定はオフです。オンにすると、モニターの上端付近・下端付近（それぞれ画面高さの20%の範囲）ではホットストリップに触れてもサイドバーが開かなくなります。他アプリのタイトルバーやタスクバーの操作時に誤ってサイドバーが開いてしまうのを防ぎたい場合にオンにしてください。

マルチモニター環境： OmniDock はマウスが到達したモニターの端を自動的に検知し、そのモニターへ移動して展開します（詳細は FAQ 参照）。ただし「ホットストリップを非表示（0px）」を有効にした場合は、画面端ぴったりまでマウスを動かす必要があるため、ご注意ください。

クリップボード設定

クリップボード履歴の最大保持件数をスライダーで設定します（5～200件）。
上限を超えた場合は古い履歴から自動的に削除されます。

アプリを終了

設定画面の一番下にある「**アプリを終了**」ボタンをクリックするとアプリが終了します。
終了時にすべての設定・履歴・並び順が自動保存されます。

6. よくある質問 (FAQ)

Q. サイドバーが開かない

A. 配置側の画面端（既定は右端。端から 10px 以内）にマウスを移動させてください。ファイルをドラッグしながら近づけても開きます。「ホバー検知」で 0px に設定している場合は、画面端ぴったりまでマウスを動かす必要があります。また「開くまでの待ち時間」を設定している場合は、画面端にカーソルをその時間だけ留める必要があります（途中で離すと開きません）。

Q. 左側に表示したい

A. 設定画面の「配置位置」で「左端」を選ぶと、サイドバーが画面左端に移動します。

Q. 最大化ウィンドウと OmniDock が重なる

A. ピン止め（）を有効にすると、最大化ウィンドウが OmniDock の幅（300px）を自動的に避けるようになります。

Q. クリップボードからペーストされない

A. 先に貼り付け先のテキスト入力欄にカーソルを置いてから、OmniDock のクリップボード項目をクリックしてください。ファイル項目の場合、コピー後に元のファイルを移動・削除・リネームしていないかもご確認ください（実体ではなく場所を記憶しているため、元ファイルが無くなると貼り付けられません）。

Q. 並び替えができない

A. グループの並び替えはヘッダー左端の  アイコン部分（またはヘッダー全体）からドラッグします。グループ内のアイコンは、アイコンビューではアイコンを直接、詳細ビューでは行頭の  グリップをつかんでドラッグしてください。手動登録分とフォルダ自動表示分は別々のまとまりとして並び替わります。

Q. × をクリックしたらファイルが消えた？

A. 一時置き場の × は「一覧から削除」するだけで、ファイル本体は削除されません。元の場所にファイルは残っています。

Q. 登録した URL のアイコンが地球儀（）のまま変わらない

A. アイコンはサイト自身のファビコン（`/favicon.ico`）を自動取得して表示します。ファビコンを `/favicon.ico` で配信していないサイトや、オフライン・到達できないサイトでは取得できず、地球儀アイコンのまま表示されます（動作には影響ありません）。

Q. エクスプローラーからドラッグしてグループを作りたい

A. グループエリアの **グループ枠の外（空きスペース）** にドロップすると新規グループが自動作成されます。フォルダを開いたエクスプローラーの **ウィンドウ（タイトルバー）** をドロップするとそのフォルダを指定したグループ（中身を全件表示・自動同期）に、**ファイルを選択して** ドロップすると選択したファイルだけを

登録したグループになります。なお、既存のグループ枠の **中** にドロップした場合は、これまでどおりそのグループにショートカットが追加されます。

Q. 設定はどこに保存されている？

A. ユーザーフォルダ内の `%AppData%\OmniDock\settings.json`（通常は `C:\Users\<ユーザー名>\AppData\Roaming\OmniDock\settings.json`）に自動保存されます。エクスプローラーのアドレスバーに `%AppData%\OmniDock` と入力すると開けます。設定画面から戻ったとき・グループを追加/削除/並び替えたときにも即時保存されるため、クラッシュしても設定は失われません。

Q. タスクバーが右側にある環境で使えますか？

A. はい、OmniDock はタスクバーの位置を考慮して配置を計算します。タスクバーが右側・上部にある環境でも正しく動作します。

Q. マルチモニター環境では？

A. OmniDock はマルチモニターに対応しています。マウスが**いずれかのモニター**の端（配置設定に応じて右端または左端）に到達すると、OmniDock がそのモニターへ自動的に移動して展開します。プライマリ・サブモニターの区別なく、すべてのモニターで同様に動作します。

Q. OmniDock をもう一度起動しようとしたら「すでに起動しています」と表示された

A. OmniDock は同時に1つしか起動できません。タスクバーやタスクトレイに既存のウィンドウが残っていないか確認してください。見つからない場合はタスクマネージャーで「OmniDock」のプロセスを終了してから再起動してください。

Q. PowerShell コマンドショートカットをクリックしても何も起きないように見える

A. 既定では「実行中のウィンドウを表示する」がオフになっており、コマンドはバックグラウンドで実行されます。画面に変化が無いコマンドの場合は正常に実行されていても気づきにくいことがあります。実行結果を確認したい場合は、対象のアイコンを右クリックして「コマンドを編集...」を開き、「実行中のウィンドウを表示する」にチェックを入れてください。

7. インストール・アンインストール方法

インストール

- 配布された **OmniDock-Setup-x.y.z.exe** を実行します。
- ウィザードに従って進めます。インストール先は既定で `%LocalAppData%\Programs\OmniDock` です。ユーザーフォルダ配下へのインストールのため、**管理者権限・UAC の確認は不要**です。
- 完了画面で「OmniDock を起動する」にチェックを付けると、そのまま起動します。

アンインストール

Windows の「設定」→「アプリ」（または「プログラムの追加と削除」）の一覧から **OmniDock** を選んでアンインストールしてください。アンインストーラが実行中の OmniDock を終了させたうえでファイルを削除します。

クリップボード履歴やショートカットの登録内容などの設定は `%AppData%\OmniDock` に保存されています。アンインストールしてもこのフォルダは自動削除されないため、設定ごと完全に削除したい場合は、アンインストール後に手動で削除してください。

8. 配布形態（お試し版・シェアウェア版）

OmniDock は次の 2 つの形態で配布されています。機能はどちらも同じです。

- **お試し版:** 本ページ（Vector）で配布しているのはお試し版です。インストールから **5 日間** 無料でお試しいただけます。
- **シェアウェア版:** 購入後にご利用いただける、**期間制限のない版**です（300円）。
 - 購入ページ: <https://nori33.booth.pm/items/8420047>

お試し版について

- **起動時のオンライン確認:** お試し版は起動のたびにインターネット経由で試用期間を確認します。そのため、**起動時にインターネット接続が必要**です。認証サーバーに接続できない場合はアプリが起動できません。
- **残り日数のお知らせ:** 起動するたびに、お試し期間の残り日数がメッセージで表示されます。
- **設定画面のバナー:** 設定画面の上部に、残り日数と購入ページへのリンクを示すバナーが表示されます（シェアウェア版では表示されません）。
- **期限切れ:** お試し期間が終了すると、専用の案内ウィンドウが表示され、そのままではアプリを起動できなくなります。ウィンドウ内のリンクから購入ページへ進めます。
- 購入後にシェアウェア版（**OmniDock-Setup-x.y.z.exe**）をインストールすると、お試し版の上に上書きインストールされます。アンインストールし直す必要はありません。

9. 作者への連絡先

ご意見・ご要望・不具合報告は、以下の連絡先までお願いします。

- **メール:** nori3.dev@gmail.com
- **X（旧Twitter）:** <https://x.com/nori91407752>